

登山 月報

JMSCA 登山月報 第670号 令和7年1月15日発行



「南アルプス茶臼岳から望む南アの連なり」撮影：静岡県山岳・SC連盟 中遠登山クラブ 内海廣治

8月11日 みんなで山を考えよう!
 祝「山の日」
 全国「山の日」協議会
 山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する

新春号 No.670

令和7年 新年のご挨拶 会長 蛭田 伸一	2
SKIMO フランス合宿&ワールドカップ開幕戦ケーシュベル大会	3
令和6年度 山での応急手当講習会	4
第2回アルパインクライミング懇談会2024 報告	5
IFSC クライミングユースアジア選手権(ジャムシェードブル)2024 報告	6
Enjoy Climbing	8
山梨県山岳連盟 自然保護委員会のSDGsな活動	9
第21回 山岳遭難事故調査報告書 その3	10
寄贈図書	11
JMSCA、表紙のことば	12

令和7年 新年のご挨拶



会長 蛭田 伸一

加盟団体、登山愛好者、関係省庁、スポンサーの皆様、そしてスポーツライミング、スキーモの選手をはじめとする山岳スポーツを愛する皆様、明けまして

おめでとうございます。

2025年(令和7年)の幕開けにあたり、日本山岳・スポーツライミング協会(JMSCA)を代表してご挨拶申し上げます。

1. パリオリンピックの成果

昨年の令和6年は、スポーツライミング競技において、パリオリンピックで銀メダルを獲得するという快挙を成し遂げました。また、中国・貴陽で開催されたユース世界選手権では、金6個、銀2個、銅5個の計13個のメダルを獲得し、国別ランキング1位を達成しました。これは、選手の努力、指導者の献身、そして皆様の支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。この成果は次世代の選手育成にも大きな希望を与えるものであり、JMSCAとしても引き続き最大限の応援をお願い申し上げます。

2. 財政の安定化と競技会の運営

令和6年度は黒字化を目指し、競技会の運営についても適切な予算管理を徹底しました。令和6年6月以降に開催された競技会はすべて予算内で運営することができ、今後予定されている残り3つのジャパンカップについても成功裏に開催できる見込みです。選手強化を含めた予算管理を徹底し、令和6年度の決算では経営改善を第一目標として取り組んでいます。

3. スキーモの冬季オリンピック開催

2026年に開催されるミラノ・コルティナダンペッツォ冬季オリンピックでは、山岳スキー(スキーモ)が追加種目として正式に採用されます。これにより、スキーモへの関心がさらに高まることが期待されます。JMSCAとしては、競技力向上と選手育成に注力し、スキーモの国内外でのプレゼンス向上に取り組めます。

4. 新たな取り組み

令和7年度には、一般登山者を対象とした新しい登山企画をテスト的に実施する予定です。この企画では、都道府県山岳・SC連盟(協会)の指導者やベテラン会員の知識や経験を活用し、安全で充実した登山体験を提供するとともに、民話を通じた学びや感動を共有しま

す。これにより、新たな活躍の場を創出し、財源拡充も図ります。

また、登録管理システム「JMSCAフレンド」の本格活用を進め、各種資格のデジタル表示を推進することで利便性を向上させます。

5. JMSCAフレンドの機能

JMSCAフレンドは会員登録管理のシステムとして以下の機能を提供します。

1. デジタル加盟団体証の表示

都道府県山岳・SC連盟(協会)の加盟者が申請し、承認を受けることでデジタル加盟団体証が表示されます。QRコードを利用して参加者名簿としても活用可能です。

2. 自然保護指導員証のデジタル表示

自然保護委員会の自然保護指導員証をスマートフォンで表示し、管理を行います。

3. 夏山リーダーデジタル資格証の表示

- ・JMSCA公認の夏山リーダー資格証
- ・UIAA公認の上級夏山リーダー資格証 講習会の開催要項、修了証、資格証の管理から授与までを一括で管理します。

4. 講習会やイベントの管理

JMSCA主催の講習会やイベント情報を提供し、申し込み受付、料金支払い、参加者名簿作成、修了証のデジタル表示を行います。

5. 登山グレードの表示

登山者のレベルを「登山記録」に基づきデジタル表示します。GPSデータを活用して、登山口や経由地、山頂、下山口の記録を保存し、これを基に「登山グレード」を表示。遭難防止やツアー対象者の選定に役立ちます。

6. 登山情報の提供

登山者が安全で楽しい登山を行えるよう、各種情報を提供するプラットフォームとして機能します。

7. JMSCAフレンドの登録

新規無料会員の登録方法

<https://friend.jma-sangaku.or.jp/>



〒新井山岳連盟山岳会

6. 事業の共存と展開

登山、スポーツライミング、スキーモという3つの関連スポーツを包括的に展開し、それぞれの魅力を広める方法を模索してまいります。山岳スポーツのさらなる発展に向け、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆様にとって素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

SKIMO

フランス合宿&ワールドカップ 開幕戦クーシュベル大会

いよいよオリンピック予選のシーズンが始まり、11月11日に都内の国立スポーツセンターで遠征前の合宿を終えた代表チームは合宿の地、フランスティエニュに向け出発した。都内の事前合宿では合宿地の高地に順応するべく、低酸素室での宿泊やトレーニングを行った。

11月13日に現地入りをした我々 SKIMO チームは現地でスペイン人のペップコーチと合流し、徐々にティエニュの高所環境に適応させながらトレーニングに励んだ。

現地入りした時こそ雪もまだ少なく、数日の間は標高差で800mほどスキー場上部の氷河地帯まで歩いてそこでトレーニングを行なわなければならなかったが、徐々に積雪も増え宿泊地であるスキー場ベースから直ぐにスキーを履いてトレーニング出来る環境が整った。

このティエニュには地元フランスチームはじめ、スペイン、ポーランド、アンドラなど各国からシーズン初めの雪と高所という好環境を求めて世界中から選手がやってくる。我々、日本チームも今期で3シーズン目となり、どこのチームとも顔馴染みでお互いに刺激を受けながらの良い環境となっている。

トレーニングは順調に進み、まずは11月30日にフランスチームが主催のスプリントタイムレースに我がチームも参加した(他にも数か国出場)。調整途中では有るものの、海外の競合国と同じ土俵でシーズン初めに自分のポジションを確認出来る環境は我々チームにとってはとても有意義なことである。

12/6までティエニュでのトレーニングを順調に終え、12/7にお隣の谷のメリベルで行われるフランス選手権のオープンの部(海外選手の部)に我々チームは参加した。

時折雪が激しく降り、視界もままならない天候の中、強豪国のフランス国内代表をかけて争われる激しい戦いも観戦出来良い刺激になった。

結果はエースの島が決勝には残れなかったものの、開幕戦に向けて良い仕上がりを見せ、女子のエース田中は悪天候の中、コンスタントに粘り強くヒート戦を戦い抜き、決勝でも2位表彰台を掴んだ。オープン戦とは言え、チームにとっては嬉しい結果となった。

その日のうちに、クーシュベルに移動し週末に行われる開幕戦に備えて調整を行った。ここクーシュベルには常設のSKIMOアップヒルコースがあり、隔週でパーティカルレースが行われるほど地域にSKIMOが密着した世界的に有名なスキーリゾートでも有る。



日本チーム集合写真

12月14日、今季開幕戦のスプリントレースが行われた。今後を占う意味でどのチームも幸先良いスタートを切りたい大事な試合である。

結果は以下の通り

男子 39位島徳太郎、68位遠藤健太、83位小寺教夫
女子 36位上田絢加、47位田中友理恵、50位白井夏海、
52位滝澤空良、56位青木聖美

男子の島、女子の上田が健闘しもう少しで30位以内の予選突破という走りを見せたが、我々がオリンピックの切符を掴むうえでの最大のライバルである中国のトップ選手には残念ながら男女ともに先着されてしまった。10年前から海外コーチを招聘し確実に力を付けている中国チーム。大陸の枠の獲得はMIXED RELAYでのポイント争いになるのだが、今後アンドラから始まるMIXED RELAYの試合に向け調整方法などを含め、課題を残す結果となった。

翌15日は登りだけで競うパーティカルレース。スキー場脇に常設されたコースを(標高差523m、距離3.2km)一気に登るレースである。結果は以下の通り。

男子 75位島徳太郎、89位遠藤健太、92位小寺教夫
女子 33位田中友理恵、44位上田絢加、45位白井夏海、
55位滝澤空良、60位青木聖美

種目的にはオリンピックには直接は関係ない種目ではあるが、こちらも中国のトップ選手は日本チームに先着し、層の厚さを見せつけられる結果となった。

1月中旬から再開されるワールドカップに向け、より一層の底上げとリレーにおけるチーム戦略を考慮しながら4月までの長い予選シーズンを我々チームは戦っていく事となる。関係者の皆様、引き続き、ご支援ご協力よろしくお願い致します。(コーチ平田)



令和6年度 山での応急手当講習会

登山医科学委員会主催 令和6年11月9日～10日

「山での応急手当講習会」を神奈川県立山岳スポーツセンターで開催しました。昨年から始めた講習会で2回目の開催となります。講習会参加者は受講者12名(男性7名、女性5名)、スタッフ11名の計23名でした。

内容は座学が4時間、実習が7時間で座学は危急時対応、外傷処置法、熱中症、低体温症、高度障害、紫外線障害、野生動物対応、などについて講習しました。実習は頭部外傷、手首捻挫、足首捻挫、大腿骨折、下腿骨折、骨盤骨折などの応急処置、また、全身観察法、搬送法、シナリオトレーニング(滑落外傷編、低体温症編)などを行いました。

スタッフ配置は、外傷処置実習では2名に1名のスタッフについてもらいました。またシナリオトレーニングでは3名の受講生に2名のスタッフについてもらい、スタッフが傷病者役となりリアルな演技をしてもらいながら実習を進めました。各グループにスタッフが専任したため受講者からの数多くの質問に時間をかけて応えることができました。

以下に受講者の代表の感想を掲載します。

(登山医科学委員会 中島隆之)

神奈川県山岳連盟 川崎山岳会 大塚 淳

昨年に続いて2年連続で参加させていただき、ありがとうございました。要綱を見ると同じ内容のようでしたが、1年間の山での活動において幸いにも実践する機会がなかったため半分くらい忘れてしまったのと、半分くらい覚えているうちに再度受講して自分の身に着けておこうと思い参加しました。登山&医療に関わっている多数の講師陣による講習会で幅広い講習内容であり、実習が多く、さらに教科書には書いていない先生たちは現場でどう対応しているかといった内容や、受講生の具体的な質問にも答えていただけて有意義な講習会だと思います。

実は2回目とあって申し込みには悩みました。去年は締め切り前に定員になったこともあり、連続で参加しては他の申込者の機会を奪ってしまうことになるのではと少し見合わせていましたが、ひっそりとした募集でもあったためか意外となかなか定員にならず、無事申し込みをすることができました。

去年と同様に仲間とともに複数人で参加させていただきましたので、講習会後にまた仲間とともに復習会を開いていざという時に備えたいと考えています。

今回は新しい内容も加わるというお話もありましたの



で、また楽しみにしています。

山口県山岳・スポーツクライミング連盟 原田ひろみ

「山での応急手当講習」、去年は都合がつかなかったが、今年はぜひと思い受講した。

念願の講習は座学から。理由や目的を説明していただき、とてもわかりやすい。「動けるうちに対処する」「リスクを知っておく」という言葉に、自分の中でぼんやりとしていたものが鮮明になった気がした。質問にも明確な回答をいただき、疑問や懸念だったことが解決していく。

実技では登山装備を使った傷病者への対応を学ぶ。医療の現場にいて、かつ登山経験豊富な方々が講師をしてくださる。まずデモンストレーション、それを見て実習という形が実技ごとに行われ、わかりやすい。受講者二人に講師が一人ついてくださるという手厚い指導。その場ですぐにアドバイスをいただけるのはありがたかった。

二日目のシナリオトレーニングでは受講内容を総合的に実践する。こちらもデモを見た後に行うのだが、傷病者役の講師の方が、症状や状態などをアレンジしてくれる。デモのとおり…と意識がいき過ぎていた私は、柔軟な対応ができなかった。その際のアドバイスが的確、丁寧で、とても勉強になった。

もしも事故現場に遭遇した際、対応するためには知識やスキルをしっかり身に付けておく必要があると感じている。そして、一人でも多くの登山者が対応を知っておくことで、重大な事案を減らすことにつながっていくのではないだろうか。今回教えていただいたことを県の講習会などで伝達していきたい。

末筆ではありますが、講師の方々、関係者のみなさま、ご多忙のなか講習会を開催していただき、心より感謝申し上げます。



第2回アルパインクライミング懇談会2024報告

2024年11月26日19:00～:於すみだ産業会館

天気予報では懇談会の開会時間に合わせるようかのように大雨になるという報道がされていたが故か、今回の参加者は14名と少なめである。それでもYou Tubeの申込者は50名であった。

〈岩から広がる世界〉

講演は国内外でのアルパインクライミングの第一人者である馬目弘仁常任委員のファシリテーションで王鞍隼介(おおくら けいすけ)講師のお話から、まだ20代、その上山登りは都立大山岳部に入ってからというもの、たった10年程の登山歴の内容が実に濃い!

現在の大学山岳部にありがちな部員不足で指導者が少ないのも、ものともせずに沢・岩・雪と自由きままに登山をする。中でもロッククライミングに憑りつかれ、卒業後は長野県川上村のクライミングショップで働きながら小川山や瑞牆を中心にクライミング漬けの日々をおくり、強力なロッククライマーとなった。初海外はパタゴニアのフィッツ・ロイ。長期間粘っても敗退者が多いので有名だが、現地へ到着して一週間と経たずに登頂したばかりか6本もの周辺ルートの登攀を行なった。このような世界屈指の岩壁でも日本の瑞牆での継続登攀の経験がそのまま生きてくる事を実感できたとの事。

初の高所登山は2024年6月のペルー、キタラフ峰(6036m)南東稜を5日間で初登。ペルーアンデスの稜線は巨大なキノコ雪が何段にも発達する事が多く、尾根通しは非常に困難であり岩壁ねらいが多いのだが、あえてキノコ雪の悪さをも楽しみながら登ったというもの。「日本の冬山の方が天気悪い、ペルーは天気も良く、寒くもなく、プレッシャーがなかった」と言う。

彼はクライミングもボルダリングでも遠征の感覚は同様なのでは?との事、どんな山、ルートでもフェアにギリギリのラインにこだわりたいと言う。

〈ツクチェピーク前衛峰北東壁〉

続いて伊藤仰二(いとう こうじ)講師による2023年12月、つまり冬のネパール、ダウラギリ山群ツクチェ



ピーク前衛峰(6490m)北東壁初登のお話。講師は35才から有機農業を始め年間300日程度、草と格闘しており農閑期の冬にしか長期間休めない。しかし12月のネパールに誘っても誰も付き合ってくれない中、今回のパートナー賀門尚士(かもん なおと)氏を適当に言いくるめた!?ばかりでなくポーターレスで安く行け、高差1200m以上のカッコ良い壁を、との注文に1か月半をかけてパソコンで探してもらい、夏には先行をして各種用意を済ませ準備万端で本人は仕事を終えネパールに向かった。

自身は高所が苦手?と自覚しており国内・現地と高所順応をすることに時間と手間を惜しんでいない。これはネパールへは5回も行っており高所を良く知ってのことであろう。

本番の登攀は12月17～23日だが、その前に2度も大雪に見舞われアプローチでラッセルを強いられている。本番初日のビバーク地にて一晩中スノーシャワーを浴びてシュラフはびしょ濡れで窮地となるも登攀を続行。2日目は非常に困難なツララが垂れたピッチ等々…5ビバークの末1700mの岩壁を完登し前衛峰に登頂。その後下降に移り、クライムダウンや懸垂下降をしたもののデポ地(4800m)まで届かず、食料無しのオープンビバークとなった。翌日フラフラの状態に登山を終了した。

特記すべき事は軽量化の為ダイニーマ使用のザック(30ℓで180g)や雪を入れての人工テラス・アイスハンモック(150g)等を自作。泊りは特注のツェルト(280g)と装備面で独創的な工夫をしている。

穂高の屏風岩に登る感覚でヒマラヤのカッコいい壁に登ることに憧れていたという講師は、はるかに大きいスケールの登攀をやったのけたのである。

(国際アルパインクライミング委員会 笹原芳樹)



王鞍講師



伊藤講師

IFSCクライミングユースアジア選手権 (ジャムシェードプル)2024 報告

ユース日本代表ヘッドコーチ
西谷善子

2024年11月14日から17日まで、インド・ジャムシェードプルで開催された「IFSCクライミングユースアジア選手権」に参加しました。本大会では、ユース日本代表選手たちが金メダル8個を含む計24個のメダルを獲得し、今年も国別ランキング1位を達成することができました。今回の大会では、長距離移動や現地の気候、運営環境の違いなど、選手たちにとって多くの試練や挑戦がありました。それらを乗り越えた結果として素晴らしい成果を収めることができました。

ユース世界選手権に続き、ジュニア(U-20)カテゴリーの選手たちは、2025年からの年齢規定変更により本大会がユース最後の出場となることを理解し、チームをけん引する姿を見せてくれました。この姿は下の世代の選手たちにとって大きな刺激となり、ユースチームのこれからに良い影響を与えるものとなったと感じています。また、今回の成果は、選手たちの日頃の努力やトレーニングの成果をはじめ、チームとしてのお互いを支え合う姿勢や強い連携の賜物だと感じています。

本大会を通じて、改めて国際大会での経験が選手たちの成長に与える影響の大きさを実感しました。選手たちは、環境や運営の違いに戸惑う場面もありましたが、それを乗り越えた経験は、精神的な強さと柔軟性を与えてくれ、次のステージへの貴重な糧となるはず。今後のさらなる成長が楽しみです。

最後になりますが、選手たちを支えてくださったスタッフの皆さま、応援してくださった皆さま、そして現地で大会運営に尽力された全ての方々に心より感謝申し上げます。今後ともユース日本代表への温かいご支援をよろしくお願い致します。

<優勝選手からの合宿および大会コメント>

■田宮瑛人(U-20男子ボルダー優勝)

国際大会でメダルを獲れずにユース選手を卒業する

のは納得できないので、絶対に勝つと決めて出場しました。ユース選手として最後の大会を決勝で全完登して優勝という最高の形で終わることができて嬉しいです。BIG BONUS!! 今まで応援してくれた方々へ少しは結果で返せたのかなと思います。

自分はジュニアになってようやく国際大会に出れるようになったので、今結果が出せずに悩んでいる選手も諦めずに最後まで挑戦し続けてほしいです。

できればもう5年ユース選手でいたいですが、来年からはシニアに上がってより厳しい舞台での勝負になります。何年かかかるかもしれないけど、また日本代表として戦えることを目標に頑張ろうと思います。

■谷井和季(U-20男子スピード優勝)

素直に嬉しかったです。初めての国際大会での優勝で今後に繋がるいい経験になりました。

これからはワールドカップでも活躍できる選手になりたいので来年のうちには4秒台に突入したいです。

■林かりん(U-20女子スピード優勝)

今年最後の国際大会、ユースでの大会だったので優勝出来たことは素直に嬉しかったです!

出場するからには日本記録更新と優勝したかったですが…叶わなく悔しく思います。ですが、沢山の方の支えと応援のおかげでここまで頑張れました。

ありがとうございました

目標は、ロスオリンピックで表彰台に乗ることです! パリオリンピック出場出来なかった悔しさをバネにそれまでの過程も大切にして、4年後に向けて頑張ります!

■石黒紗彩(U-18女子ボルダー優勝)

初めての国際大会でとても緊張したけど、楽しんで最後まで全力で挑むことができたと思います。そして優勝することができて凄く嬉しいです。

これからもっと強くなって、観ている人を楽しんでもら



リード



ボルダー

えるようなクライミングができる選手になりたいです。

■藤村侃奈 (U-18女子リード優勝)

今は、私自身初めての金メダルで嬉しい気持ちでいっぱいです。しかし、決勝は私のオブザベ不足でミスをしてしまい、とても悔いの残る登りで終わってしまい、もっと登りたかったという気持ちでいっぱいでした。

まずはシニアの日本代表になることが一番の目標です。また、毎回の試合で苦しいところからさらに粘り自分の力を出し切ることができるように登りの精度を上げていきたいです。

■濱田琉誠 (U-16男子ボルダール優勝)

優勝できて嬉しいよりも、全完できなくて悔しいというのが今の気持ちです。でも、今回の大会を通してモチベーションがさらに上がったので、とてもいい経験になりました！次の大会に向けて、この調子で頑張ろうと思います！

■仲田和樹 (U-16男子リード優勝)

今でも信じられないです。世界ユースに出てからアジアユースで勝ちたいという気持ちが増えて練習の仕方を少し変えたりしました。すごく努力して勝てたので良かったです。努力できたのも親や友達の支えのおかげなのですごく感謝しています！

来年の目標は、もう一度日本代表になって世界ユースで優勝することです！

将来の夢はオリンピックで優勝し、クライミングをサッカーのように誰もが知っている有名なスポーツにすることです！

■林有沙 (U-16女子リード優勝)

優勝できてとても嬉しいです。

この大会では私の得意不得意がはっきりしたのでこれから改善していきたいと思います。

これからの目標は、まずテンポよく登り、時間配分を意識して登りたいです。また、来年の日本選手権でまた表彰式に上げられるように努力していきたいと思います。



スピード

■獲得メダル数

	金	銀	銅	
リード	3	2	3	
ボルダール	3	3	3	
スピード	2	3	2	
合計	8	8	8	24

■リード結果

男子			
Under 20 (ジュニア)			順位
和田 樹怜	わだ きさと	高知県山岳連盟	2位
猪鼻 碧人	いの はなりくと	武蔵大学	3位
大西 蛍雪	おおにし けいせつ	日本大学	4位
Under 18 (ユース A)			
長森 晴	ながもり はれる	N高等学校	4位
藏敷 慎人	くらしき まなと	兵庫県山岳連盟	5位
船木 陽	ふなき はる	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	10位
Under 16 (ユース B)			
仲田 和樹	なかた かずき	神奈川県山岳連盟	1位
濱田 琉誠	はまだ りゅうせい	神奈川県山岳連盟	4位
宮川 幸大	みやがわ こうた	静岡県山岳・スポーツクライミング連盟	11位
女子			
Under 20 (ジュニア)			順位
竹内 亜衣	たけうち あい	筑波大学	2位
小倉 紗奈	おぐら さな	同志社大学	3位
永嶋美智華	ながしま みちか	静岡県立静岡西高等学校	4位
Under 18 (ユース A)			
藤村 侃奈	ふじむら かな	奈良県山岳連盟	1位
仲田永和子	なかた とわこ	神奈川県山岳連盟	4位
柿崎 咲羽	かきざき さわ	東京都山岳連盟	8位
Under 16 (ユース B)			
林 有沙	はやし ありさ	石川県山岳・スポーツクライミング協会	1位
中村まりん	なかむら まりん	茨城県山岳連盟	3位
徳嵩 悠乃	とくたけ ゆの	長野県山岳協会	7位

■ボルダール結果

男子			
Under 20 (ジュニア)			順位
田宮 瑛人	たみや えいと	日本大学	1位
和田 樹怜	わだ きさと	高知県山岳連盟	2位
大西 蛍雪	おおにし けいせつ	日本大学	4位
Under 18 (ユース A)			
長森 晴	ながもり はれる	N高等学校	5位
本明 佳	ほんみょう けい	岩手県山岳・スポーツクライミング協会	8位
栗田 瑛真	くりた えま	山形県山岳連盟	9位
Under 16 (ユース B)			
濱田 琉誠	はまだ りゅうせい	神奈川県山岳連盟	1位
仲田 和樹	なかた かずき	神奈川県山岳連盟	9位
齋木 猛斗	さいき たけと	四日市市立中部中学校	9位
女子			
Under 20 (ジュニア)			順位
竹内 亜衣	たけうち あい	筑波大学	2位
小倉 紗奈	おぐら さな	同志社大学	3位
永嶋美智華	ながしま みちか	静岡県立静岡西高等学校	4位
Under 18 (ユース A)			
石黒 紗彩	いしくろ さあや	東京都山岳連盟	1位
伊藤 未唄	いとう むつ	静岡県立静岡西高等学校	3位
Under 16 (ユース B)			
山崎 彩葉	やまざき いろは	東京都山岳連盟	2位
村上 和香	むらかみ わか	京都府山岳連盟	3位
西川 美愛	にしかわ みあ	徳島県山岳連盟	5位

■スピード結果

男子			
Under 20 (ジュニア)			順位
谷井 和季	たにい かずき	榎原学院高等学校	1位
三田 歩夢	みた あゆむ	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	4位
山本 恭也	やまもと よしや	愛媛県山岳・スポーツクライミング連盟	12位
Under 18 (ユース A)			
上柿 銀大	うえがき ぎんた	岩手県山岳・スポーツクライミング協会	3位
大石 覇	おおいし はく	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	4位
大西 月華	おおにし つきか	神奈川県山岳連盟	8位
Under 16 (ユース B)			
齋藤 蒼太	さいとう そうた	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	2位
石田 観千	いしだ みゆき	福岡県山岳・スポーツクライミング連盟	3位
林 晃佑	はやし こうすけ	各務原市立蘇原中学校	6位
女子			
Under 20 (ジュニア)			順位
林 かりん	はやし かりん	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会	1位
河上 史佳	かわかみ ふみか	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会	2位
竹内 亜衣	たけうち あい	筑波大学	4位
Under 16 (ユース B)			
原 菜都美	はら なつみ	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	2位
岡信 葵衣	おかのぶ あおい	岡山県山岳・スポーツクライミング連盟	4位
岡部 朱里	おかべ あかり	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	9位

※ 黄色ハイライト入れているのがメダル獲得選手

伊佐見 奈穂子

2年前にシャモニで一緒に登ったフランス人の知人ジェフとセシルからメールが来た。「明日からシャモニに行く。プトレイリッジやろうと思うけど、一緒に行く？」もちろん返事は「イエス!!」だ。プトレイリッジはイタリア側からモンブランへの非常に大きなスケールの岩稜。ガストンレヴィュファの『モンブランおすすめ100ルート』でも「モンブランへ登頂するための最もすばらしいルート」と紹介されている。翌日6時にキャンプ場に迎えに来るといふことで大急ぎで準備を始めた。

朝シャモニからモンブラントンネルでイタリア側のクールマイユールに移動。駐車場から最初のピークであるエギーユ・デュ・ノアールの取付きまでは太陽カンカン照りのなか、ピアフェラータを挟みながらのアプローチとなった。ノアール小屋の横を通って取付き手前の雪渓終了点で水を汲む。ノアールは南稜から取付くのが一般的だが、セシルがシーズン初ということもあり、我々は易しい東稜から取付くことにした。

ノアールの山頂までは難しい箇所なく同時登攀で登っていく。18時頃、まだ明るいがちょうどいいビバーク地を見つけて行動終了。ちなみにこの日、東稜は私たちだけ、南稜も1パーティのみだった。フランス側のゲートルートや3山ルート(モンブランタキュル、モンモディ、モンブランの縦走)がいつも渋滞しているのに比べると、同じモンブランに登るルートとは信じられない。さて、メインビバークは2人分のスペースしかなかったので、私は少し離れた高台で横になった。1人のビバークは想像以上に寒くて、夜中に何度も目が覚めた。

2日目は日の出と共に出発。ノアール山頂にはあっさり到着したが、大変なのはここからだった。トポにはラッペル10回とあったけど少なくとも15回はあったし、途中でスラブ内のクラックにロープがスタック!“Mince!!(クソっ)”思わず悪態をつく、結局コルに降りるのに5時間もかかってしまった。途中ドイツ人の2人組が同時懸垂で抜かして行った。(このあと山頂まで何度となく一緒になった、頼もしい2人)懸垂が終わるとコルから次のダムアングレーズ南面は脆いミックス。ピーク直前になるとやっと岩が安定して、気持ちいい右トラバースで山頂のラッペルアンカーに出た。ここから数回ラッペルをして左に回り込んだ後、クーロワールを詰めると今日の宿ピエロ・クラベリ避難小屋に到着。収容人数4人の小さな小屋では先に到着したドイツの2人と私たち3人でぎゅうぎゅうだが、昨日の寒さに比べたら有難いほど快適だった。明日の行動について話し合う。当初は3日で抜ける話だったが、どう考えても明日モンブランを踏んで下山するのは厳しい。プラス1日、明日頑張っ



▶モンブラン・クールマイユール最後の登り

◀ブランシュ南東～北西ピーク



き、翌日余裕もって3山ルートから降ることにした。明日の長い一日を覚悟して眠りにつく。

3日目、まだ真っ暗な中行動開始。最初のチョックストーンの後、トラバースが右に逸れるのでルーファイに苦戦しながら進む。間もなく朝焼け。前にはダンデジュアンや先日登ったグランドカピュサンが、後ろには昨日登ったノアールが、朝日に照らされて見える。絶景の中、次のピークであるブランシュを目指した。ブランシュ(Blancheフランス語で「白い」という意味)山頂は名前の通り白い雪が南東ピークから北西ピークまで続いている。途中岩のミックス帯を挟みながらトラバース。北西ピークからはラッペル3回で11時にプトレイのコルに到着した。さて、ここから後半戦!と思った矢先、目の前のフレネイ中央壁、グランド・ピリエ・アングル南面からは、落石の物凄い音…登攀継続にはリスクが高すぎると判断し、ここで夜を待って再出発することにした。それにしては日差しが強く、暑さで昼寝するのも一苦労だった。

18時半、雪の再凍結を待つこと7時間、別ルートからモンブランを狙うガイドパーティの後ろを追う形で再出発。正直、誰かの後ろを追うのは気が進まなかったが、雪、シャワー、氷、岩と変わっていくコンディションを苦ともせずに登っていく彼らには感服した。このパート甘く見ていたけど、昼間の腐った雪だったら相当時間かかっていたはずだ。稜線に到着した頃、ちょうど夕闇が下りた。ビバーク地には先に上がったドイツ組がいたので、私たちはさらに進む。23時近く、際どいスラブの氷帯を通過。そろそろどこかで休みたい、だがビバーク地は見つからず、棚状になった岩でお座りビバークに入った。ほぼ眠れず、寒い待ち時間。本当に、昼間の暑さはどこへ行ってしまったんだろう!

4日目。寒さに耐えきれず2人に声をかけ4時出発。動いたら少し寒さが和らいだ。出発と同時に後ろからドイツ2人組も追いついてきたところだった。まだ薄暗い中、長い雪のスロープをじわじわ上がっていく。途中氷もあって2箇所スクリュエを打った。明るくなるにつれ自分たちがいる場所の実感が増し、ピッケルを一手一手確実に突く。不意に雪面が赤く染まって、背中に光を感じた。数分後、朝6時、先行パーティがつけた雪庇の隙間を

這い上がって山頂に立った。モンブラン・クールマイユール。やっと着いた！平な場所に立った安堵感もあったが、寒さには勝てない。北面に変わった瞬間から風が確実に体温を奪っていく。写真もそこそこ、フランス側のモンブランはほぼ素通りして3山ルートを下降開始。1箇所

モディからの急傾斜の下りがあったが他は問題なし。6月にタキュルに登った時より、雪も安定してトレースもしっかり付いていた。11時バレブランシュの雪原に降り立った。あとはもう慣れ親しんだエギーユ・デュ・ミディの駅までゆっくり登り返すだけだった。

山梨県山岳連盟 自然保護委員会のSDGsな活動

山梨県山岳連盟自然保護委員会のメインになる活動は、山梨県から委託されている「山岳レインジャー」という高山植物などの調査業務です。毎年4～9月まで山梨県内の山で実施されています。山域は、南アルプス、八ヶ岳、奥秩父、その他山域と分かれ、基本、二人一組、一泊二日での山行を48回実施します。

加盟団体数は21会、レインジャー業務を担当しているのは14会、登録者数は例年130名ほど、平均4回弱のレインジャー業務を各会が担当しています。

その中でも北岳は特別な固有種が多いため、調査回数も多くなっています。高山での植物調査は天候に左右されることが多く、近年多くみられる豪雨には大変手こずっています。

山岳レインジャーの歴史は古く、山梨県が高山植物に関する条例（「山梨県高山植物の保護に関する条例」）を昭和60年（1985年）に全国に先駆けて制定、それと同時に山梨県山岳連盟は県より委託されて山岳レインジャー活動を開始しました。この頃の活動内容は、「高山植物の保護活動全般・パトロール清掃活動等」でした。それから23年が経ち、平成20年（2008年）にはこれまでの条例は「山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例」改訂され、これにより目的も変わり、特定種（現

在25種）及び希少種の調査業務・自然保護活動全般等となり現在に至っています。高山植物の調査に変わってから既に16年経過し、毎年学習会を重ね、調査者のレベルアップも図られ成果をあげられるようになってきました。高山植物の調査に加え、近年あちこちで聞かれる鹿の食害、痕跡の報告、ライチョウ目撃情報、登山道荒廃状況なども併せて報告をしています。

またコロナで中断時期もありましたが、富士山クリーン作戦（ごみ拾い8、9月）、三ツ峠防鹿柵設置（修繕、草刈り）、甘利山クリーン作戦（笹刈り）への参加等も実施しています。

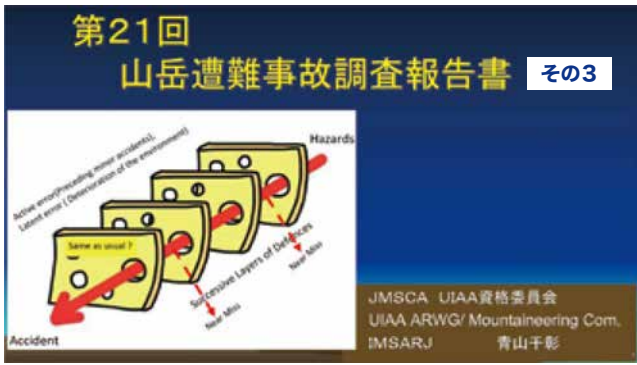
2025年度には、富士川沿いに繁茂している外来指定植物オオキンケイギク除去ボランティアを予定しています。高山ではありませんが、ボランティア活動への普及啓発活動の一助となることを思い、子供から大人までの参加を期待しています。

前述しましたレインジャー活動は基本的に山梨県山岳連盟加入団体の方々をお願いしていますが、個人的にやってみたいという方は、山梨県山岳連盟の個人会員になって頂けると参加できる制度があります。興味のある方はご一報いただくと幸いです。

（山梨県山岳連盟 自然保護委員長 中川恵美子）

レインジャー活動で調査している植物の一部





5章 2023年 警察庁の事故データ分析結果

本データは、毎年6月に公表される警察庁の事故統計を基に、再分析後・データ加工したものである。なお、警察庁では2023年1月から12月までの調査結果としている。

1. 2023年山岳遭難事故の傾向

2023年の山岳遭難事故は、遭難者数で、前年度より62人増加し、遭難件数で111件増加した(図5)。その結果、過去最多の遭難者数3568人、遭難発生件数3126件となった。

登山団塊世代(S15-30)の多くが後期高齢者世代に入るにつれ、高齢登山者の減少による事故者の減少が始まると予想してきたが、未だに事故者数の減少が始まっていないことになる。

しかし、訪日外国人の事故が発生件数100件、遭難者総数145人と急増している。6年分の調整を行うと、図6から分かるように、遭難件数では対前年度差で16件の増加で過去最多であるが、遭難者総数では130人の減少となり、微少ではあるが減少傾向を示している。今後の変化を見守っていききたい。



図5 2023年の山岳遭難事故発生状況



図6 訪日外国人事故者を削除した事故発生状況

2. 事故者の年齢分布

図7より、事故者の年齢分布は前年度同様、60歳以上が半数を占め、70歳台(22.1%)をピークに分布した。典型的な事故者の高齢化傾向は変わらない。(参照JMSCA会員の年齢分布図3)

また、事故者の世代別経年変化を図8に示す。大きく増加してきた70～80歳台の割合が僅かに一定から減少の傾向を見せている。今後を予想する上での重要な変化として注目している。

登山団塊世代(昭和15～30生)が69～84歳になる。未だこの世代が事故者の年齢分布傾向を知る上でのキー世代となり、活動の特徴となっている。健康寿命が男性72.7歳、女性75.4歳から考えても、登山活動を続けることは高齢者の健康を維持する秘訣なのかもしれない。

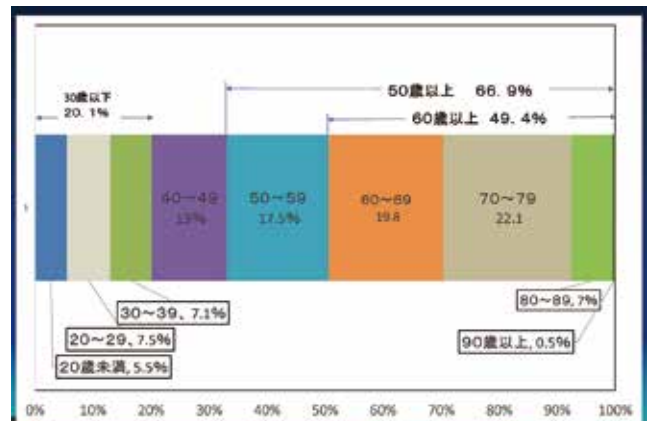


図7 事故者の年齢分布

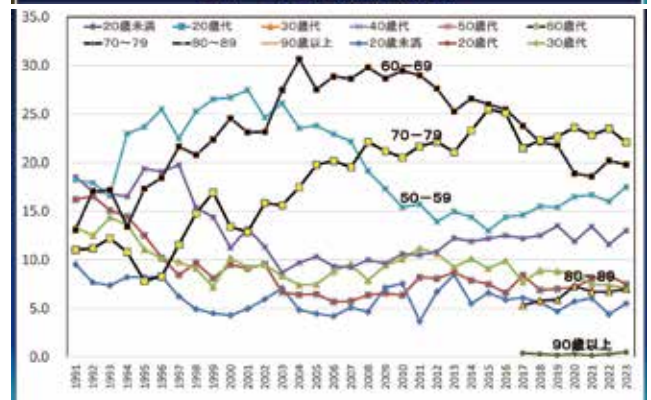


図8 各世代別経年変化

3. 登山目的別遭難者

2023年の登山形態は、コロナ以前に戻り、登山目的での事故は過去最高2365人となった。コロナの最も影響を受けた2020年の1681人から684人も増加となる。

なお、登山系の他の項目も、コロナの影響を受けていない。むしろハイキング事故は増加し、登山の肩代わりをした。

非登山系では山菜採りが少しづつ減少し、道迷い事

表2 2023年登山目的		
2023年		
登山系	登山	2365
	ハイキング	224
	スキー登山	66
	沢登り	70
	岩登り	36
非登山系	山菜採り	334
	溪流つり	38
	作業	57
	観光	86
	写真撮影	28
	山岳信仰	19
	自然観賞	30
狩猟	6	
その他	209	

故数の減少の一因となっている。他の項目は経年的に変化が小さい。

4. 登山事故態様

2023年における事故態様を図9に示す。図より明らかのように、「道迷い」が33.7% (1204件) と突出している。

しかし、全態様に占める「道迷い」の割合は2020年に44%を記録して以来、減少している。ただし、「転倒・滑落・転落」「病気・疲労」と「道迷い」の関係を図10に示したように、道迷い事故数が減ったのではなく、「転倒・滑落・転落」や「病気・疲労」要因の事故数が急増していることに起因している。かつて、高齢化登山時代を迎えるにおいて、高齢化による転倒、病気、道迷いが増加すると予想してきたが、遅れてやってきた感じである。

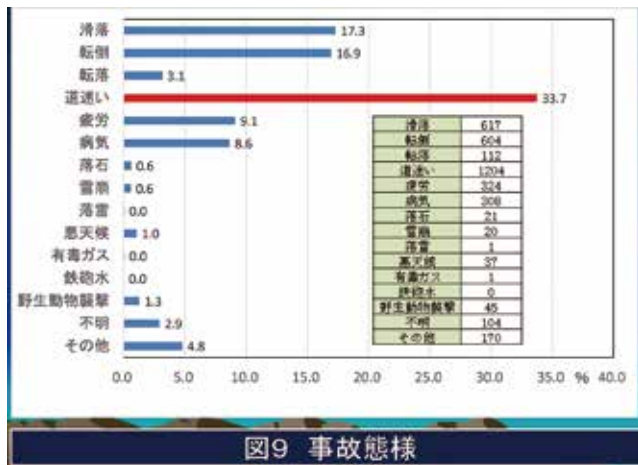


図9 事故態様



図10 道迷い、病気、疲労、転倒、転落、滑落事故要因の経年変化

5. 県別事故発生状況と事故の傾向

山岳事故データがマイナーな情報である以上、上位10県を公開するには抵抗があるが、事故の発生量は、母数となる登山者数の影響が大きいため、県別登山活動度を表す指標でもある。

表3に事故の件数、総数、死亡・行方不明における上位10県を表した。また、表4は小さくて見にくいのが2012-

表3 遭難者数、発生件数、死亡・行方不明上位10県

都道府県	行方不明	都道府県	遭難者数	都道府県	発生件数
1 長野県	40	1 長野県	332	1 長野県	302
2 北海道	33	2 北海道	245	2 東京都	214
3 岐阜県	22	3 東京都	233	3 北海道	212
4 山梨県	20	4 神奈川県	204	4 神奈川県	179
5 東京都	16	5 群馬県	159	5 群馬県	147
6 神奈川県	15	6 山梨県	157	6 山梨県	145
7 新潟県	15	7 静岡県	150	7 富山県	134
8 青森県	13	8 兵庫県	145	8 岐阜県	133
9 秋田県	13	9 新潟県	144	9 静岡県	129
10 群馬県	12	10 富山県	144	10 新潟県	126

ほぼコロナ以前に戻った。都市近郷型事故として、東京都の順位が一気に上昇してきた。

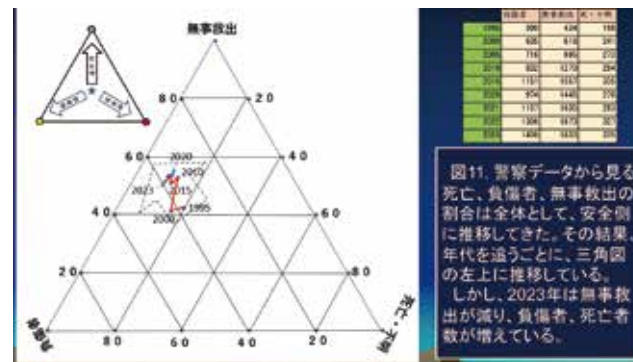


図11 警察データから見る死亡、負傷者、無事救出の割合は全体として、安全側に推移してきた。その結果、年代を遡るごとに、三角図の左上に推移している。しかし、2023年は無事救出が減り、負傷者、死亡者数が増えている。

2023年の発生件数である。長野県がコロナの影響を受けた年でさえ、常に突出した値を示し、安全登山問題を考える基準県であることを示している。

全国の無事救出、負傷者、死亡・不明の割合の経年変化を見るため、図11に三角グラフで表した。3者の関係は、全体としては安全側に推移してきたが、2023年では、負傷者、死亡・不明者が無事救出の割合を大きく上回り、危険側に動き出した。



寄贈図書

(公社) 日本山岳会	「山」2024年(令和6年)11月号 No.954、12月号 No.955	会報	山と溪谷社	「日本百名山・二百名山・三百名山地図帳 2025」	寄贈本
(株) 日本運動具新聞社	「スポーツ産業新報」第2453号、第2454号	新聞	東京野歩路会	「山嶺」Vol.102 No.1138	会報
(公財) 健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No. 560	会報	(公財) 全国高等学校体育連盟	全国高体連ジャーナル 2024 Vol.47	会報
(株) 山と溪谷社	ROCK & SNOW No.106	季刊誌	日本山岳遺産基金	日本山岳遺産基金通信	会報
(公財) 埼玉県スポーツ協会	「スポーツ埼玉」Sports 2024 冬号 Vol.305	会報	(一社) 日本防火・防災協会	「地域防災」2024.12 DEC. No.59	会報
(株) ネイチュアエンタープライズ	「岳人」2024 January No.931	寄贈本	(一財) 日本スポーツマンクラブ財団	日本スポーツマンクラブ財団会報	会報
一等三角点研究会	会報(新世紀台十七号)	季刊誌	大阪府立体育館	季刊大阪府立体育館	会報
山と溪谷社	「山と溪谷」2025年1月号	月刊誌	(公社) 日本山岳会	「山」2024年(令和6年)12月号 No.955	会報

- 日 時：令和6年12月12日(木)
13:00—17:15
- 場 所：JSOSビル3F会議室4及びZoom
- 出席者：蛭田会長、古賀・吉田各副会長、小野寺専務理事、赤尾事務局長、野村・町田各常務理事、小田部・佐藤・島田・中島・中橋・西谷・畑中・濱田・樋口・前田・望月・安井各理事 以上19名
佐久間監事、古屋監事 以上2名
- 欠 席：小高・栗田・杉本・平田各理事 以上4名

1. 開 会

2. 蛭田会長からの挨拶

理事の皆様、本日は理事会にご参加いただきありがとうございます。今月は、役員選考規程の見直し、来期の予算策定の時期となりました。よろしくお祈りします。

3. 会議成立状況報告

理事数 開始時23名中19名出席(定款第33条、定足数=12名(1/2超))
監事数 2名出席

4. 議長選出

蛭田会長が議長を務める。(定款第32条)

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

6. 議題(注。審議順に記載)

議案第1号 議事録の承認について(前回第10回の議事録について)

11月中に回覧、確認され承認済

議案第2号 役員選考規程改定案について

古賀副会長が、配布資料を基に説明した。ブロック別代表の理事を推薦できるが、できないところもあるので、“推薦する”ではなく、“推薦できる”に変更してはどうかという意見が出た。この文面に変更したうえで、当改定案について、採決を取り以下のように承認された。

反対0名、棄権0名、賛成19名

議案第3号 2022年度決算における理事の責任、決議・宣言文について

望月理事が、配布資料を基に説明した。さらに、理事会として決議文をまとめるのか、対外的な宣言文とするのかを協議し、以下のような結果となった。

- JMSCA正会員を想定した決議文とする。
- 文章内容については、先月、当初の文書を作成した人と、個別に協議確認したうえで、素案を確定し、後日、メールで、理事に送付し、承認をとる。
- 当内容については、理事会議事録の報告として添付する。

以上の対応について採決をとり、次のように承認された。

反対0名、棄権0名、賛成19名

議案第4号 全国理事長会議について

小野寺専務理事が、配布資料をもとに、次の説明をした。

2025年2月9日(日)を予定していたが、JSOSビルでは全部屋予約不可となっている。その中で以下の2つの選択肢がある。

- 2月8日(土)に日付変更する。

- 2月9日(日)青年館で行うことにする。JSOSで実施するより、40,000円—50,000円高くなる。

上記選択肢の各々のメリット、デメリットについて協議したのちに、どちらで行うか採決をとった。

2/8に開催 反対0名、棄権0名、賛成17名
2/9に開催 反対0名、棄権0名、賛成0名
2/8が賛成17名で、2/9を選択する人が0名なため、2/8に実施することとし、12/13にその旨の開催通知を岳連に配布することになった。(12月13日に、2月9日の予約が可能になったため、当初予定の2月9日開催で、全国に通知した。)

また、議事について、以下の項目を追加することになった。

- *財政再建計画・現状報告について
- *2022年度赤字における理事の責任決議について

*役員選考規程改定について

*次年度の事業予定(案)について

出せるものだけでよく、未定の部分はXX月頃でかまわない。

*その他(共済会、月報等)

議案第5号 協会表彰規程に基づく表彰候補者の推薦について

小野寺専務理事が、配布書類を基に現状の候補者を説明した。

*岳連推薦者 5名

*SC表彰者 16名

*指導委員会 2名

合計 23名

上記対象者について採決を取り、以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成19名

議案第6号 一理事と事務局との業務委託について

赤尾事務局長が、配布資料を基にして、事務局員の残業過多と、今後の事務処理増対応のために〇理事が、事務局業務を行うことに伴う業務委託契約(案)を説明した。

採決を取り、以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成19名

議案第7号 事務局JSOS内移転契約について

赤尾事務局長が、配布資料を基に、財政再建策の一環として、現行の807から905の部屋へ移動することにより年間1,425,600円の固定費削減となるが、その移転のために2,047,000円かかることを説明した。

また、当該費用は、補正予算のうち、会議費(別途行う予定だったオリンピック報告会)と、雑費で賄うため、追加予算なしで対応することを説明した。

当提案について採決を取り、以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成19名

議案第8号 登山月報発行改善について

赤尾事務局長が、アンケートの結果と、今後の対応案を説明した。

アンケートの結果として回答のあった38県中、27県(約75%)が、PDF化されるならば、配布を廃止してもよいが、HPに掲載したタイミングで、その旨の連絡メールが欲しいと要望があった。

また、月報の配布を約束している人もいるし、現行の紙のメリットもある。中身の記

事についても意見があり、更なる検討が必要という意見があった。

また、改善案として以下の2点を行うことが説明された。

- 岳連からいただいた返信に基づいて、不要の分の配布をやめる。

2月配布分から約1750部減

- 上記以外の配布先にPDF化をアナウンスし、配布をやめる旨を伝達する。引き続き配布継続の希望があるところは、“配布申込書”提出してもらう。

JMSCAの都合で、配布しているところは、配布継続として、“配布申込書”を添付しない。約250から500部減。

その後、完全PDF化や、配布希望者への有料配布等の意見がでたが、来年の1月の理事会で最終改善策を提案することになり、今後、前田理事が中心になって提案を作ることになった。

議案第9号 SC来年度日本代表選手選考基準について

安井理事が、配布資料を基に説明し、以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成19名

7. 報 告

報告第1号 月次報告、キャッシュフロー

赤尾事務局長が、予算管理表と、キャッシュフロー表を画面から説明した。

11月の末時点で、補正予算に対して、59%の執行率であること、SC競技の業者への支払いの一部延期や、協賛金の4月入金により、資金ショート回避できる予定であることが説明された。

報告第3号 JOC認定強化センター3拠点の次年度推薦について

現在、盛岡、西条、倉吉の3拠点が対象となっているが、今までの使用実績と、他の県(佐賀等)からも、推薦希望が来ているので、それらを加味してどこを推薦対象とするか次回決定する必要がある。

報告第4号 新春懇談会について

1月11日(土)実施で、関係者に案内を配布済。12月23日(月)までに出欠回答を依頼している。

報告第5号 内閣府からの質問事項について

小野寺専務理事、町田SC部長、百瀬競技委員長で対応することになった。

報告第6号 THE 1-GIVE IT EVERYTHING-Vol. 3B-PUMP公認大会承認について

配布資料の方々が、常務理事会で承認された。

報告第8号 今後のスケジュールについて

8. その他

- 議案第3号の決議文は、右記のとおり

以上
令和6年12月12日 記録 赤尾浩一

お詫びと訂正

『登山月報』No.669の12頁の理事会報告の議案第8号の下線部で、以下の誤りがあったので、ここに訂正するとともに深くお詫びいたします。

誤 「収支は+約700万円で、正味財産も1375万円の予定となっている」

↓
正 「収支は+6,924,959円で、正味財産は27,270,962円の予定となっている」

JMSCA 赤字決算発生に伴う役員の実任と今後の対立に関する決議

2022 年度及び 2023 年度決算において多額の赤字を発生させたことについて、その責任の所在は、直接的に又は間接的にその業務を担っていた者ばかりではなく、業務執行を決定し理事の職務を監督することを怠った理事会に在ることを強く認識する。

また、今後このようなことが二度と生じないよう本協会の組織と運営管理の在り方について、次の事項を改めて確認し、実行する。

1. 理事会は、すべての理事によって構成し、

①JMSCA の業務執行を決定

②理事の職務の執行を監督

③会長、副会長、専務理事及び常務理事を選定及び解職

することの権限を有している。

よって、理事は、意思決定を行う責任は重大であることを自覚し、理事会にあっては、十分に審議の上、自らの責任によって判断し決議に臨む。

2. 理事は、JMSCA すなわち会員等から運営管理を委任されおり、その委任の主旨により善管注意義務を負い、また忠実義務も負っている。つまり、JMSCA の利益のために合理的に対応することが求められており、これに反する業務執行を決定した場合には、理事は JMSCA に対して賠償責任を負っていることを自覚し、職務に誠心誠意邁進する。

3. 特に重要な業務執行の決定は理事会の専権事項であるので、登山部門、スポーツクライミング部門、山岳スキー部門及びその他の所管事項において、予算の多少にかかわらず業務執行を決定する際に、理事は、詳細な情報収集に努め最善の意思決定を行い、適時的確に情報を開示する。

4. これらを受け事業実施において、理事会及び理事は、

①事業内容を精査し、取捨選択し、目的に合った最適な事業を行うことを決定する。

②厳密な予算立案、適正な事業実施、事業終了後 1~2 か月での決算など、委員会等による予算執行状況を理事会は掌握し、厳格な予実管理を行う。

③理事会において決定した業務執行と実施事業に整合性があるかを判断することで、代表理事をはじめ業務執行理事の職務の執行を監督する。

以上について、認識し、実行し、また理事一同が一致協力し、JMSCA の更なる発展のため、これまで以上に精励していくことをここに決議する。

令和 6 年 12 月 12 日

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会 理事会

かすみちゃんのハイキング日記



表紙のこぼれ



「南アルプス茶臼岳から望む南アの連なり」

例年の南アルプス登山道パトロールに茶臼岳に向かう。登山道はここ数年の豪雨により荒れたカ所が多く見られた。翌朝、茶臼岳の山頂に立つと滝雲の流れの向こうに、上河内岳、聖岳、赤石岳と南アルプスの峰々が連なって見えた。

静岡県山岳・SC連盟 中遠登山クラブ
内海廣治

編集後記

新年、あけましておめでとうございます。編集担当を引き継いでから1年が経ちました。この1年は、あれこれと忙しく、あっという間に過ぎ去りました。今年はどんな年になるのか、とても楽しみです。

さて、埼玉県の阿寺の岩場が2024年12月31日をもって閉鎖となりました。この決定は、二子山訴訟問題を受けて地主さんが懸念されたための対応とのこと。この岩場は利用した事があるので、閉鎖の知らせを聞いて複雑な気持ちです。他の岩場についてもそうですが、利用させてもらっていることを忘れず、ルールやマナーを守って利用することが改めて大切だと感じました。

(松本光顕)

登山月報 第670号

定価 110円 (送料別)
 予約年間 1,300円 (送料共)
 (毎月1回15日発行)
 発行日 令和7年1月15日
 発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
 Japan Sport Olympic Square 807
 公益社団法人
 日本山岳・スポーツクライミング協会
 電話 03-5843-1631
 F A X 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん
山と人、時代をつなぐ「岳人」

2月号
販売中

【特集】地図で広がる山の楽しみ

モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて販売中!

毎月15日発売 価格1,100円(税込)



▶年間購読が断然おトクです!

年間購読 通常特典 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

さらに モンベルクラブ会員さまには **5,000P** プレゼント!

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

年間購読特典

岳人オリジナル手ぬぐい



岳人の表紙絵を描く
中村みつを氏のイラストを使用!

限定デザイン

岳人
カード

全国2,000ヵ所以上で
ご優待!



全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



日山協山岳共済会のご案内

**安全登山は登山者の努め、
山岳保険は義務。**

ご自身のために、ご家族のために。

日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

2022年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課
(2023年6月9日)

発生件数 **3,015**件(前年対比 380件増)
遭難者数 **3,508**人(前年対比 431人増)
死者・行方不明者 **327**人(前年対比 44人増)

